

アランの幸福論

複雑に錯綜する現代の社会組織の中で人生を歩んでいく以上、自分を取り巻く周辺が自分に都合のよいように振る舞ってくれることはまずない。周辺はしばしば自分に敵対的でさえある。私どもは、周辺をそのようなものとして認めるより他ない。

人間が病むこともなく人生を送るのは不可能である。老いて死にいたることは誰もこれを避けることができない。老い病み死ぬことから人間が自由であることはありえない。社会的不条理や生老病死のことを不安に思い、これに恐怖するのは森田正馬の言葉でいえば「人間感情の本来」であった。その本来を本然として「あるがまま」に受け入れることができない。過去を悲観的に振り返り、未来を不安に慮きんがはつてここに在る人生の今に身を任すことができぬ。今から逃避し、煩悶はんもんと抑鬱よくうつの日常に苛まれさいなれる。このような人間の苦悩が森田神経症であった。アランはこの辺りのところに大変に鋭い目を向けて、いくつかの箴言しんげんを私どもに与えてくれる。

「現在に専念しなさい。刻一刻と前に進んでいる自

渡辺利夫わたなべ としお（公益財団法人オイスカ会長）

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学、東京工業大学教授、拓殖大学学長、総長、学事顧問などを歴任（二〇一〇年十二月、退任。二〇一七年六月より現職）。

分の人生に専念しなさい。この瞬間の後は次の瞬間がある。そしてあなたは今、現に生きているのだから、今生きているように生きていくことは可能なのだ。あなたは未来を怖がっている。しかし未来は今のあなたにとってまったくわからないものでしかない。……すべては変わり、すべては過ぎ去る。この格言には悲しい思いをさせられることが多いが、しかし、時には慰めにもなるのだ」

そしてアランは、今を生きよと次のような励ましを与えてくれる。

「人が耐えなければならぬのは現在だけ。過去も未来も無害である。なぜなら過去はもう存在しないし、未来はまだ存在しないのだから。……過去と未来が存在するのは、人がそれについて考える時だけ。つまり両方とも印象であり、実体がない。それなのにわたしたちは、過去に対する後悔と未来に対する不安をわざわざつくりだしているのである」(齋藤慎子訳『アランの幸福論』デイスカヴァー・トゥエンティワン)